



一般社団法人
全国国立大学附属学校PTA連合会
(全附P連)



一般社団法人 全国国立大学附属学校PTA連合会

全附連合同事務局

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-2-29 虎ノ門産業ビル8F
TEL: 03-3591-2091 FAX: 03-3591-2092
E-mail: jimukyoku@zenfuren.org



私たちは「公教育」を支えます
～子どもたちとこの国の未来のために～

CONTENTS

1. 国立大学附属学校の概要
2. 全附連について
3. 全附P連について
4. 全附P連の活動紹介
5. 全附P連 創立65周年ビジョン

1 国立大学附属学校の概要

歴史

明治維新後間もない1872年設立の東京高等師範学校を皮切りに、1870年代半ばから末にかけて全国に師範学校がつくられ、1880年代にはその附属小学校が設置されました。

戦後はGHQ統治下で、軍国主義的教育の場だったとして存続の危機を迎えますが、その重要性が理解され、新制大学の制定と師範学校廃止により、国立大学附属小学校として生まれ変わりました。

一方、附属中学、附属高校はそのほとんどが、戦後の教育制度改革による6・3・3制を受けて設立されています。

現在の姿

国立大学附属学校は、全国56大学に、幼稚園52園、小学校69校、中学校70校、義務教育学校3校、高等学校17校、中等教育学校4校、特別支援学校45校の、計260校園が設置され、約9万人の子どもが通っています。

附属学校は、大学・学部、教職大学院また地域と連携した教員の養成と研修、学校教育の実践研究による指導法の開発など、わが国の公教育の根幹を支え、教育水準向上を目指す役割を担っています。



わが国の公教育の根幹や教育水準の向上を支える

附属学校の役割
(公益性・公共性)

- 教育実習校
- 現職教員研修校
- 教育研究校
- 国・地域のモデル校

全国の国立大学附属学校

56大学260校園 約9万人の子どもたち



令和2年3月31日現在

近畿地区

- 滋賀大学教育学部附属
○幼稚園 ○小学校 ○中学校 ○特別支援学校
- 京都教育大学附属
○幼稚園 ○京都小中学校
○桃山小学校 ○桃山中学校 ○高等学校
○特別支援学校
- 奈良教育大学附属
○幼稚園 ○小学校 ○中学校
- 奈良女子大学附属
○幼稚園 ○小学校 ○中等教育学校
- 大阪教育大学附属
○幼稚園 ○天王寺小学校 ○天王寺中学校
○高等学校天王寺校舎 ○平野小学校
○平野中学校 ○高等学校平野校舎
○池田小学校 ○池田中学校
○高等学校池田校舎 ○特別支援学校
- 和歌山大学教育学部附属
○小学校 ○中学校 ○特別支援学校
- 神戸大学附属
○幼稚園 ○小学校
○中等教育学校 ○特別支援学校
- 兵庫教育大学附属
○幼稚園 ○小学校 ○中学校

四国地区

- 香川大学教育学部附属
○幼稚園 (坂出) ○幼稚園高松園舎
○高松小学校 ○高松中学校 ○坂出小学校
○坂出中学校 ○特別支援学校
- 鳴門教育大学附属
○幼稚園 ○小学校 ○中学校 ○特別支援学校
- 愛媛大学教育学部附属
○幼稚園 ○小学校 ○中学校 ○高等学校
○特別支援学校
- 高知大学教育学部附属
○幼稚園 ○小学校 ○中学校 ○特別支援学校

九州地区

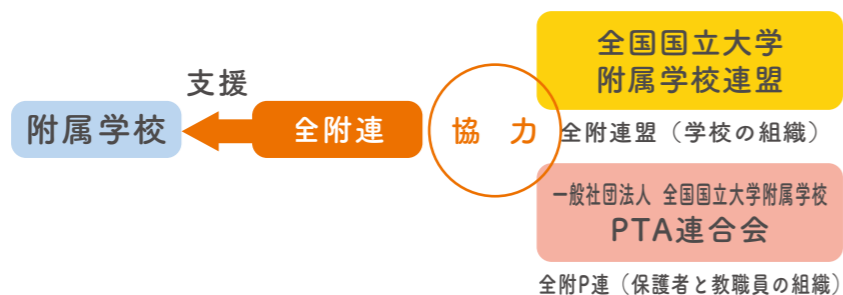
- 福岡教育大学附属
○幼稚園 ○福岡小学校 ○福岡中学校
○小倉小学校 ○小倉中学校 ○久留米小学校
○久留米中学校
- 佐賀大学教育学部附属
○幼稚園 ○小学校 ○中学校 ○特別支援学校
- 長崎大学教育学部附属
○幼稚園 ○小学校 ○中学校 ○高等学校
○特別支援学校
- 熊本大学教育学部附属
○幼稚園 ○小学校 ○中学校 ○特別支援学校
- 大分大学教育学部附属
○幼稚園 ○小学校 ○中学校 ○特別支援学校
- 宮崎大学教育学部附属
○幼稚園 ○小学校 ○中学校
- 鹿児島大学教育学部附属
○幼稚園 ○小学校 ○中学校 ○特別支援学校
- 琉球大学教育学部附属
○小学校 ○中学校

2 全附連について

全附連とは

全附連とは、国立大学附属学校で組織する「全国国立大学附属学校連盟」（略称：全附連盟）と附属学校PTAで組織する「一般社団法人全国国立大学附属学校PTA連合会」（略称：全附P連）の総称です。全附連は、子どもたちの学習環境の充実と安心・安全な環境の確保を目指し、また、教育実習校、現職教員研修校、教育研究実践校であり、公教育向上や国・地域の学校のためのモデル校としての役割を果たすべく、努力を続けている国立大学附属学校の支援を目的に活動しています。

全附連は、公教育を支えます。



コロナ禍の学校休業中における附属学校の取組

- ◆ 静岡大学教育学部附属浜松小学校
休校中における PTA 活動の在り方
- ◆ 新潟大学附属長岡校園
オンラインによる研修講座の開発と地域への提供
- ◆ 北海道教育大学附属旭川幼稚園
YouTube を利用したメッセージの配信
- ◆ 熊本大学教育学部附属幼稚園
PTA ブログを活用した保護者への情報発信
- ◆ 静岡大学教育学部附属特別支援学校
地域の特別支援学校との実践交流-リモート朝の会-
- ◆ 鳴門教育大学附属特別支援学校
コミュニティー誌に取り組みの情報を発信
- ◆ 筑波大学附属高等学校
オンライン授業のHP開設、オンライン研究会開催
- ◆ 北海道教育大学附属釧路中学校
オンライン授業の研修支援事業
- ◆ 東京学芸大学附属竹早中学校
コロナ対策委員会による新しい生活の実践
- ◆ 香川大学教育学部附属坂出小学校
双方向遠隔授業の地域への研修や情報提供
- ◆ 福井大学教育学部附属幼稚園
アプリを活用したコミュニケーション
- ◆ 北海道教育大学附属特別支援学校
学習動画の配信で地域を元気に
- ◆ 大坂教育大学附属池田小学校
オンライン授業システムを実践
- ◆ 秋田大学教育文化学部附属中学校
四校園と大学との連携による対応
- ◆ 熊本大学教育学部附属中学校
ピンチをチャンスに！双方向のオンライン授業への挑戦
- ◆ 北海道教育大学附属札幌小学校
双方向オンライン授業の地域での実技研修会

9つの地区会

全附連では、諸活動が各地域に行き届くよう、全附連盟、全附P連ともに、全国を9地区（北海道地区、東北地区、関東地区、北信越地区、東海地区、近畿地区、中国地区、四国地区、九州地区）に分けて、各地区毎の活動も行っていきます。

3 全附P連について

全附P連とは

全附P連とは「一般社団法人全国国立大学附属学校PTA連合会」の略称です。

昭和24年、「全国国立大学附属学校連盟」（全附連盟：学校の組織）が設立され、その3年後の昭和27年に、保護者と教職員の組織として設立されました。令和2年で設立から68年が経過し、その間、この国の公教育に対する国立大学附属学校が担うべき役割の向上とともに、その社会的使命はますます高まっています。

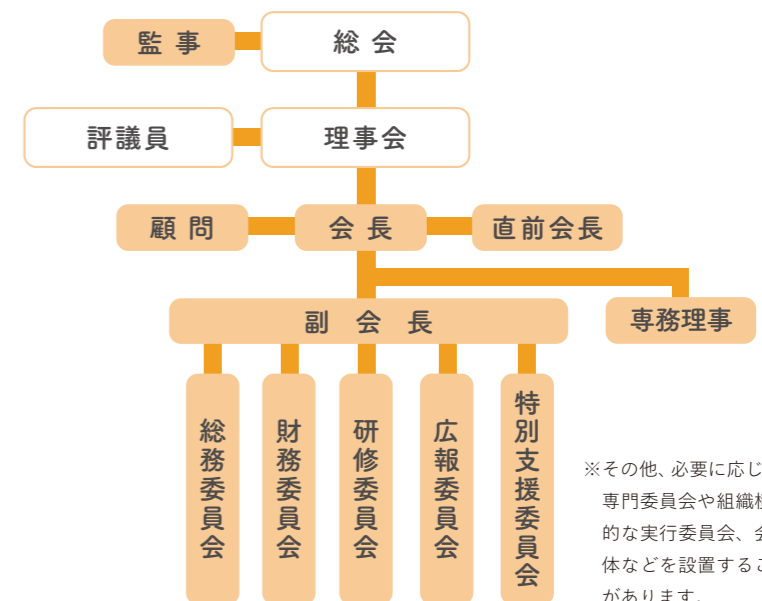
全附P連は、全国の国立大学附属学校単位に構成された単位PTAの健全な発達を促進し、あわせてわが国における社会教育、家庭教育の充実と附属学校の相互の交流を図ることにより、わが国教育全般の発展に寄与することを目的として活動しています。主な活動内容は以下の通りです。

- (1) 社会教育、家庭教育及び PTA 活動の質的向上に資するための研究会、講演会、研究研修会等の開催
- (2) 各単位 PTA 活動の活発化と交流の推進
- (3) わが国の教育及び附属学校のあり方並びに PTA 活動の諸問題に関する調査研究
- (4) 青少年の健全育成及び福祉増進に資する情報資料の収集及び提供、広報活動
- (5) 機関誌の発行並びに社会教育、家庭教育及び PTA 活動に関する図書・資料の刊行
- (6) 本会の目的に沿い、顕著な業績をあげた単位 PTA 及び会員の顕彰
- (7) その他本会の目的達成に関して必要な事業

組織

全附P連は、右図の組織で運営されています。

総会は各学校の単位PTAの代表で組織されています。理事会は全国から選ばれた計22名の理事（理事会推薦、地区推薦、連盟推薦）で、評議員は（地区推薦、連盟推薦）計23名で構成されています。



4 全附P連の活動紹介

いじめ防止活動の推進



香川大学教育学部附属坂出小学校



静岡大学教育学部附属浜松中学校



茨城大学教育学部附属小学校

全国の学校では、いじめの重大事案が発生しており、国立大学附属学校も例外ではありません。全国の附属学校は、平成28年に緊急の対策協議会を開催し、適正な対応に向けて取り組んでいます。いじめの問題は、学校だけの問題ではありません。私たちPTAも当事者である自覚を持ち、傍観者になることなく防止活動を推進しています。全附P連の推進するいじめ防止プログラムは、鳴門教育大学大学院の阪根健二先生にご指導いただき、保護者と子どもたちのコミュニケーションを重視した構成で実施しています。

障がいに関する「理解」と「共生」を育む活動

「あいサポート運動」の推進

鳥取県で始まったこの運動は、障がいの有無に関わらず、誰もが暮らしやすい社会の実現を目指したものです。

障がいのことをよく知り、障がいのある方にちょっとした手助けを実践する運動です。

全附P連は鳥取県知事と連携協定を結び、この普及に向けた活動を推進しています。



福岡大学附属中学校での様子

「カンガルーシップ活動助成金事業」

校種を超えて子ども・教師・保護者が連携し、「理解」と「共生」を育む単位PTAの活動に対して助成をする事業です。特別支援学校が実施するPTA活動に限らず、幼、小、中、高でも趣旨に合う活動に助成しています。毎年助成金の構成は変更していますが、概ね次のようなものがあります。

理解プロジェクト活動助成金	特別支援学校・学級による障がいのある子どもたちへの理解啓発につながる活動への助成
共生プロジェクト活動助成金	特別支援学校・学級とそれ以外の学校園との交流の活性化を目的とする活動への助成
就労支援活動助成金	障がいを持った子どもたちの将来の進路に関わる就労体験、就労先開拓や理解啓発活動への助成
ネイバーサポート助成金	学習障害・発達障害を持つ子どもに対する理解・支援のための活動への助成

財政教育プログラム・金融経済教育プログラム

～社会課題と学校現場を繋ぎ、子どもたちに新しい学びを～

主権者教育の一環として国家財政を学ぶことが必要だという認識を財務省と共有したところから、附属学校での財政教育プログラムの実施を働きかけました。

附属学校は教育研究を日常行っているため、財務省との協働で新しいプログラムの構築は得意とするところです。PTAの意見も取り入れてブラッシュアップすることで内容も充実し、アクティブラーニング型のプログラムになっています。全附P連のネットワークも活用し、附属学校だけでなく、公立学校・私立学校にも広く実施されています。

金融庁と連携した金融経済教育プログラムも、福島大学附属中学校からスタートし、全国の附属学校で実施しております。また、内閣府と連携し知的財産に関する知的財産教育プログラムにも取り組んでいます。



大阪教育大学附属平野小学校での様子

子ども生活支援(貧困対策)に関する活動

全附P連では、平成27年度から子ども生活支援(貧困)に関する調査研究を始めました。パッケージ型支援プロジェクトを推進する東京学芸大学のCCSS(児童・生徒支援連携センター)と情報交換をしながら、共同で研究を進めています。

附属学校の持つ課題としては、次のようなものがあります。

- ・附属学校にも6%もの生活支援が必要な家庭の子どもたちがいる
- ・同じ附属学校に通う子どもたちの居住自治体の違いによる支援の格差がある
- ・学校園単位で、対策のばらつきがある
- ・附属学校に通う子どもの放課後学級や子ども食堂の実態がつかみにくい

これまでに行った成果としては次の通りです。

- ・東京学芸大学、全附連盟と協力し、アンケートを実施し、現状を各方面へ情報発信
- ・学校園に対し、自治体の違いによる格差是正の働きかけをアピール
- ・学校園単位の奨学金制度の数少ない事例を全国で紹介
- ・東京学芸大学CCSSフォーラムで研究報告を実施
- ・内閣府子どもの貧困対策担当と連携し、フォーラム等への参加
- ・内閣府「子供の未来応援国民運動」への協力を全国の附属学校に呼びかけ、実施(こどものみらい古本募金など)



東京学芸大学フォーラムでのプレゼン

クラウドファンディング

全附P連では、急速に変化していく社会状況において、子どもたちへの新しい時代の教育の創造を資金面より支援し、附属学校園を応援したいと考え、「新しい教育研究の資金調達のためのクラウドファンディング」を行っております。

私たちは、資金集めという目的を超えて、支援を募る過程を通じて、より多くの人たちに社会の課題を示し、理解と共感を得て、その課題解決への参加者を増やしていきたいと考えております。

PTA研修会 全国大会の開催

全国規模の研修会を毎年開催しています。例年、校種（幼・小・中・高・特別支援 他）を超え1,000名近い全国の附属PTAの方々などが参加し、多くの情報や学びを持ち帰っていただいています。講演会、分科会、情報交換会などが開催され、グループ討議や他地区との交流も行っています。また、文部科学省、財務省、内閣府など関係省庁からの最新情報の説明やブース展示なども行われています。

 **第10回全国大会の様子**（令和元年10月4日・5日開催）

【開催スローガン】

子どもたちとこの国の未来のために ~今、附属がめざす「共生」~

【開催目的】

- (1)日本の公教育を国立大学および附属学校と共に支える全国規模のPTA組織として、その社会的な責任と役割を対外的に強く表明する
- (2)日本の将来を背負う子どもの健やかな成長のために、附属学校のあり方を構築していく
- (3)全国の附属学校関係者が一堂に会して、直面する全国共通の問題を認識し、解決への道を協議するとともに、さまざまな事例や取り組みを共有する

【内容】

防災、ネットリテラシー、幼稚園改革、インクルーシブ教育、働き方改革、附属学校に求められるエビデンス、あいサポーター研修、教育後援会研修、など
特別企画 国公立PTA合同公開シンポジウム テーマ「学校へのスマートフォンの持ち込みについて」



基調講演



分科会



各省庁などの情報提供ブース

過去にご講演 いただいた先生方

河合純一氏、宮崎緑氏、中室牧子氏、鈴木大地氏、茂木健一郎氏、井村雅代氏、原晋氏、林修氏、養老孟司氏、菊池桃子氏、ほか

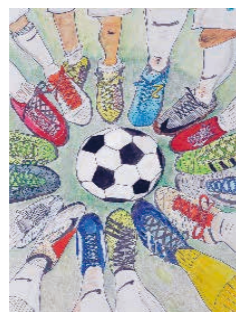
絵画コンクール

平成17年度より、子どもたちの夢や思い出をテーマに、絵画コンクールを開催しています。毎年、全国から2,000点を超える多くの作品が寄せられ、審査においては、岐阜大学教育学部附属中学校の卒業生で日本を代表する現代美術家の日比野克彦さんにもご協力を頂いており、各賞を受賞した子どもたちにとって、自信や感動を感じる貴重な機会となっています。過去には、このコンクールをきっかけに、特別支援学校の生徒が個展を開催されたケースもあります。受賞作品は、全国大会での展示や広報誌にも掲載しています。

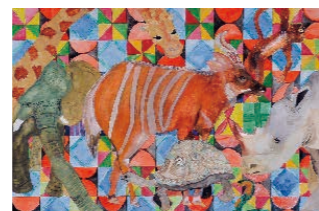
 **審査の様子・子どもたちの作品**（2019年度 第15回絵画コンクール）



審査の様子



中学校部門



小学校高学年部門

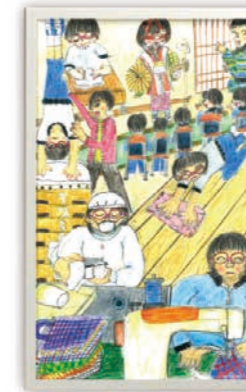


特別支援学校部門

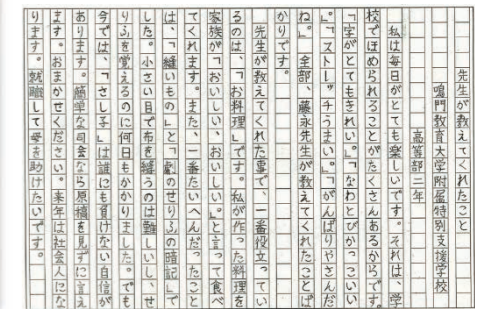
作文・絵作文コンクール

子どもたちが日常の体験や感動、思いを作文にすることを通じて、人への感謝や基本的人権について理解を深めるとともに、SNSに頼りがちな昨今、文章表現によるコミュニケーションの魅力を知り、字を書く文化の振興と心豊かな生活を身に付ける事を目的として平成30年度から開催しています。

これまでのテーマは「教師の日」制定支援にちなみ、「先生へのメッセージ」や「先生との思い出」として実施。先生への感謝の気持ちや、先生と一緒に過ごした楽しい日々なことなど、子どもたちの素直な感情が満ち溢れる作品が数多く寄せられています。



平成31年度会長賞作品



「教師の日」とは

現在、まだ日本ではあまり知られていませんが、毎年10月5日は「教師の日」として、1994年にユネスコ(国際連合教育科学文化機関)により制定され、学校、家庭、地域のそれぞれがお互いに尊敬・信頼し合えるような環境の構築を目的としています。

すでに世界においては、19世紀から、そして現在では約60カ国において、地元の教育者の担っている重要な職責に対して理解を深めるきっかけや、教育における重要な日として定められています。

広報誌「附属だより」発刊

毎年7月と12月の年2回、全国の附属学校および各単位PTAに発信し、情報共有の強化を図ることを目的に全附連盟と全附P連が合同で発刊しています。内容は、わが国の教育全般の発展に寄与すべく、全国各単位PTAがしっかりと子どもたちとそれぞれの学校に寄り添い、有意義な活動ができるよう、またその活動のヒントとなるようなPTA活動の事例や情勢や関係者各位からの情報・話題などを掲載しています。



各種勉強会の開催

平成29年度に「国立教員養成大学・学部、大学院、附属学校の改革に関する有識者会議」の報告書が提出されました。全附P連では、全附連盟と協力し様々な勉強会を開催しています。幼稚園や特別支援学校の先生方との勉強会では、新しい地域貢献のあり方を、民間人としての視点から幅広い提案を行っています。また各地区での、PTA活動の実践活動協議会の開催に協力し、各単位PTAの向上に取り組んでいます。

改正個人情報保護法への対応

改正個人情報保護法が平成29年5月に全面施行され、これまで適用除外とされていた小規模取扱業者（5千人以下）も対象となりました。これを受けて全附P連では【個人情報保護に関する基本方針および管理規定】を策定し、単位PTAへの理解と周知を促進しています。

5 全附P連 創立65周年ビジョン

子どもたちとこの国の未来のために

全附連は平成29年の国立教員養成大学・学部、大学院、附属学校の改革に関する有識者会議の報告書を受け、平成30年4月に創立65周年ビジョンを策定し、その活動の第一義である「子どもたちの学習環境の充実と安心・安全の確保」に加え、国立大学附属学校（以下、附属学校）のPTAとして次の時代に向けた取り組みをおこないます。

附属学校の公益性・公共性向上にむけた連携強化

これまでも附属学校は高い公益性を有していましたが、地域や社会への公共性という点において評価は十分とは言えません。附属学校が公益性・公共性をより地域や社会に評価していただくためには、大学、附属学校、PTAが三位一体となり、さらに協働することが必要不可欠であり、その活動のために保護者も附属学校やその社会的使命などについてもっと見識を深める必要があると考えます。

全国では、PTAがそれぞれの附属学校の研究内容を学ぶ活動や、公立児童生徒にも門戸を開いたPTA行事の開催、大学・附属学校の経営戦略への参画など、従来のPTA活動の常識にとらわれない公益性・公共性を意識した取り組みも始まっています。

- ・附属学校の公益性・公共性を高める活動への理解を深め、積極的に協働する
- ・PTAの事業に、附属学校の公益性・公共性向上の視点を取り入れる
- ・各地での行政、教育委員会、県・市P、公立・私立学校、企業などとの積極的な連携
- ・地域の自治体、子ども関連のNPOなどの団体や就労支援事業所などとの積極的な連携
- ・当連合会と中央省庁や関係諸団体との積極的な連携とその情報共有および発信

子どもを取り巻く現代的教育課題への積極的対応

附属学校のPTAは大学やそれぞれの附属学校と協働し、現在対策が必要とされる現代的教育課題にも取り組み、常に時代の変化を意識した新しい活動に取り組んでいく必要があると考えます。

全附P連では、現在、いじめ防止、子ども生活支援（貧困対策等）、財政教育プログラム、主権者教育、消費者教育、PTAによる土曜学習・放課後活動、障がい者理解推進（カンガルーシップ）、障がい者就労支援などを推進しており、今後も新しい課題に積極的に取り組んでいきます。

- ・いじめ防止は重要な社会課題と位置づけ、PTAも当事者意識を持ち取り組む
- ・財政教育、消費者教育など、現在、必要とされる社会課題に積極的に取り組む
- ・防災や安全に関する活動に積極的に取り組む
- ・障がい者理解をさらに深めるために、あいサポート運動を推進する
- ・附属学校を拠点とし、地域の障がい者就労支援に貢献する
- ・2020東京オリンピック・パラリンピックのレガシーを共有できる事業の実施
- ・当連合会は、子ども生活支援（貧困対策等）の調査研究を推進し、情報を発信する

PTA活動の合理的機能強化とコンプライアンスの徹底

保護者の共働き家庭の増加や、園児・児童・生徒数の減少傾向を受け、PTA活動をスマート化することが必要です。スマート化とは活動をスリム化（縮小）するのではなく、より賢く合理的に活発化していく取り組みです。情報の共有や発信の合理化、個人情報管理の徹底、役割分担の効率的改善などに取り組むことが必要です。また、一部の附属学校では、PTAの会合資料や事業設営を学校側が行っている事例もあるようです。時代に応じてPTAが自主的で自律的な活動を推進し、学校の負担を軽減する必要があります。

- ・ホームページ、ICT、SNSなどの活用による情報の発信や共有の合理化
- ・学校現場の働き方改革を鑑み、PTA活動の学校依存度を低減し自立的な活動を促進
- ・他団体との連携を拡大し、合理的に高成果をあげるためにPTAのネットワークを強化
- ・附属学校、PTAなど各附属学校の関係諸団体の連携強化とコンプライアンスの徹底
- ・全附P連は、各地区、単位PTAとの連携、情報共有や発信力を強化

附属学校やPTA活動の積極的な情報発信

地域や社会の中で、附属学校に対する認知度は必ずしも高いものとは言えません。附属学校が、この国の未来のために、これからも力を発揮していくためには、その存在意義や社会的使命などが如何に公益的・公共的であるのかについて、地域や社会に正しく理解され、広く支持されなければなりません。

そこで、附属学校の本来の教育活動のみならず、附属学校のことや附属学校のPTA活動に関することなどを、開かれたPTA事業、メディアなどの様々な方法を駆使することも視野に入れ、積極的に地域や社会へ質の高い情報発信をし、周知に努める必要があります。

私たち、全附P連および各国立大学附属学校のPTAは、これからも子どもたちの学習環境の充実と安心・安全の確保に努め、さらに国立学校のPTAとして、附属学校がその存在意義や社会的使命から、公益性・公共性をより高めるべく「改革」と「周知」を実践していけるようサポートし、子どもたちとこの国の未来のために貢献していきます。